



令和 6 年度

岐阜大学医学部看護学科活動報告

社会貢献部会



令和 6 年度 社会貢献活動について ご挨拶

岐阜大学医学部看護学科では、平成 28 年から「社会貢献部会」が発足して以来、継続的に活動し、4 つのプログラムに発展しています。コロナ禍の長い自粛期間を経て、各プログラムは従来の内容をさらに充実させた社会貢献活動を展開し、令和 6 年度も報告書を作成することができました。社会貢献は、2022 年度に受審した看護分野認証評価制度の中の、重要な評価項目のひとつです。少子高齢社会を視野に入れた大学の在り方が問われる時代、この活動の意義をいま一度考えながら、この報告書にお目通しいただければ幸いです。

看護学科長 井關敦子

<社会貢献部会メンバー>

社会貢献部会長：小木曾加奈子

高大連携プログラム：金子洋美（プログラム代表）、中川ひろみ（副部会長）、大平幸子、
岡本名珠子、坂口泰子

専門職を磨く教育プログラム：山田加奈子（プログラム代表）、高橋由起子、井關敦子、
魚住郁子、三尾亜喜代、柿田さおり、中島美奈子

看護研究支援プログラム：西田友子（プログラム代表）、小木曾加奈子、社本生衣、前田由紀、
三尾亜喜代、森下智美、佐々木智恵、兼松由紀子

地域住民健康教育プログラム：田中千絵（前期プログラム代表）、小林和成（後期プログラム代表）、
瀨瀬朋弥、阿部誠人、柿田さおり

目 次

ご挨拶

I.	高大連携プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1.	令和 6（2024）年度 活動報告	
2.	出前授業・アンケート結果（岐阜県立恵那高等学校・愛知県立江南高等学校・岐阜東高等学校）	
3.	探究活動・アンケート結果（岐阜県立岐山高等学校）	
4.	大学訪問：小児看護学授業への参加（岐阜県立岐山高等学校）	
II.	専門職を磨く教育プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
1.	令和 6（2024）年度 活動報告	
2.	「LGBTQ・性別不合と医療」研修会・アンケート結果	
3.	HIMAWARI ラウンジ勉強会 チラシ	
4.	大学院修了生・大学院交流会 チラシ・アンケート結果	
5.	卒業生相談窓口 チラシ	
III.	看護研究支援プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
1.	令和 6（2024）年度 活動報告 看護研究研修会アンケート結果（第 1 回～第 5 回）	
2.	チラシ 看護研究研修会 2024 年度 年間予定	
IV.	地域住民健康教育プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
1.	令和 6（2024）年度 活動報告	
2.	令和 6（2024）年度 社会貢献部学生会部活動報告	

I．高大連携プログラム

高大連携プログラム

高大連携プログラムでは、高校訪問の実績のある教員と連携し、看護に興味関心のある生徒たちを対象に、本学科の授業への参加や研究室訪問の機会を持つ。また、生徒や高校教員を対象とした出前授業や、興味関心事に対する助言を行うなどの活動を通して交流を深める。

1. 高大連携プログラムの目的

看護職として岐阜県内でリーダーシップを発揮し、看護の質の向上に貢献できる人材の育成のため、大学入試前から看護の基盤となる素養を育てる。

2. 本年度の取り組み

1) 出前授業

- ① 岐阜県立恵那高等学校
- ② 愛知県立江南高等学校
- ③ 岐阜東高等学校

2) 探究活動

岐阜県立岐山高等学校

3) 大学訪問

小児看護学授業への参加 岐阜県立岐山高等学校

2024 年度 岐阜県立恵那高等学校出前授業

日時：11 月 5 日

場所：岐阜県立恵那高等学校

出席者：25 名

担当者：小林和成

回収率：8.0%

質問 1：今回の授業の感想をお聞かせください。

- ・健康づくりには、栄養や運動も大切だけど、社会や人とのつながりが最も大切だということを知ることができました。ボランティアに参加するなどして地域とのつながりを高めていきたいと思いました。
- ・病気にかかる前からの対策が大切ということがわかった。

質問 2：その他（もっと知りたいこと、質問できなかったことなど）何でもお書きください。

- ・どのように伝えたと地域の人達により病気について知ってもらえるか。

以上

2024 年度 愛知県立江南高等学校出前授業

日時：11 月 11 日

場所：愛知県立江南高等学校

出席者：30 名

担当者：高橋由起子

回収率：26.7%

質問 1：今回の授業の感想をお聞かせください。

- ・授業で詳しく知ることができないことが学べてよかったです。
- ・保険の授業で軽く学んだ内容をより詳しく、専門的に学ぶことができ、とても貴重な経験になった。
- ・内容も分かりやすく、とても楽しい授業でした。急病者への対処法を具体的に知ることができました。特に、過換気症候群の人へ袋を当てるのがよくないということを知れてよかったです。トリアージや DMAT など、ドラマで見たことのあるものが実在するんだと少し感動しました。もし急病者に遭遇したときは、自分から動いて助けを求められる人になりたいと思いました。
- ・とても興味深くであつという間の 90 分で楽しかったです！
- ・外傷予防するために環境を整えることや手当の仕方を学べて一般人である私でも人を救う術を身につけられたと思います。あとは勇気をもって行動できるようになりたいと思いました。
- ・正しい知識を学び、身につけることによって自分がもしバイスタンダーとしてその場に居合わせたときに対応ができるのだなと思った。90 分授業を初めて受けたが興味のあるものだったので苦じゃなかった。保健の復習ができたり、それよりももっと発展した内容を学べて、とてもいい機会になったと思う。
- ・いろんな応急手当についてしれておもしろかった。急病人がいたら率先したて動けるような人になりたいと思いました。
- ・大学の講義を体験するということであつ身構えていたけれど、シチュエーションも込みでどんな場面でどんな対応をしたらいいかを教えてもらったので、分かりやすくとても身になりました。今までの保健の授業で身につけた知識をベースに看護の専門的な用語や知識を付け加えることができました。実際に看護師がどのような経験を積んでいくのかが伝わって、保健で習う知識の重要性にも気づけたので、とても為になる講義でした。ありがとうございました。

質問 2：その他（もっと知りたいこと、質問できなかったことなど）何でもお書きください。

- ・どんな授業をするのか詳しく知りたかったです。
- ・大学に入学し、より専門的な事を学んでいくなかで必要なこと。
- ・実際の大学の授業ではどういう授業をするのかが知りたかったです。
- ・血圧で上と下っていうのをドラマとかで見たんですけどその違いを知りたいです！
- ・看護学科と医学科で学習することの違いはなんですか。
- ・包帯の巻き方とかどの怪我にはどの対処をするべきなのかも知ってみたい。
- ・熱中症の時、脇以外に冷やす場所を知りたかった。
- ・今回の講義は座学だったので、大学ではどのように知識を積むのかや、実習の内容が気になりました。

2024 年度 岐阜東高等学校出前授業

日時：12 月 19 日

場所：岐阜東高等学校

出席者：9 名

担当者：小林和成

回収率：77.8%

質問 1：今回の授業の感想をお聞かせください。

- ・わかりやすく、大学入学後のモチベーションに繋がった
- ・周りの人との関わりが健康につながることを知って驚きました。信頼できる人と関わって生活の質を高めていきたいです。
- ・面白かった。普段あまり聞かない話の内容だったので驚きが沢山あった。
- ・地域の医療に元から大きな関心があったので、知っていることもあったため、理解しながら深く授業を進められました。将来の具体的な看護師像もより具体的にできました。
- ・看護師といえば病院で働く人のことを思い浮かべるけど保健師も看護師に含まれていて仕事内容が説明を聞いてよく分かった
- ・地域との関わりがこれだけ健康に関わっていると知り驚きました。そして、最後に看護師はこれから患者さんの背中を押していく役目だと学んだので、しっかり背中を押せるように学んでいきたいと感じました。
- ・とてもよかったです。未病について初めて知ったのもっと勉強したいと思いました。

質問 2：その他（もっと知りたいこと、質問できなかったことなど）何でもお書きください。

- ・保健師についてもっと知りたいと思いました。

以上

2024 年度 岐山高等学校探究活動

日時：10 月 25 日（金）

場所：岐阜大学医学部看護学科 会議室

出席者：2 年生 8 名

担当者：中川・大平・岡本・坂口・金子

回収率：75%

質問 1：今回の授業の感想をお聞かせください。

- ・探究活動において疑問に思ったところを聞いたところ、分かりやすく説明して頂き、理解する事が出来た。
- ・ネットで調べたことより詳しく聞けたし、直接医療関係者の方と話せてより病院でどういう事が起きているかなど実際のことを聞けて行って良かったです。
- ・実際にお話を聞かせていただいてインターネットや本だけだと不十分であり、実感の湧く意見や経験されてきことなどとても自分たちの為になりました。
- ・私達の質問に対して、仕事の目線からでなく親としての目線まで詳しく話してくださって、とても充実した授業になりました。
切れ目ないというキーワードが特に印象に残り、様々な支援行われていることがよくわかりました。
- ・大学の先生から実際の医療現場でのことを教えてもらったり、資料も用意して私達が分かりやすいように説明をしてくださったおかげでたくさんの疑問を解決することができました。お忙しい中ありがとうございました。
- ・調べるだけじゃわからないことを直接聞いて知ることができました。実体験などを聞けて理解が深まったり、新しい視点で問題を見ることができました。

質問 2：その他（もっと知りたいこと、質問できなかったことなど）何でもお書きください。

- ・医療事故で一番多い事故。
- ・先生方が今現在、ここが不十分だと感じている制度や支援の部分などを聞きたいです。
- ・もっと話したかったです。

以上

岐山高校 2 年生 探究活動

岐阜大学訪問

2024年10月25日（金）



2024 年度 大学の講義・演習への参加

日時：12月17日（火）

場所：岐阜大学看護学科母性・小児看護実習室

出席者：岐山高等学校 2年生7名

担当者：中川・岡本・金子

回収率：42.8%

質問1：今回の授業の感想をお聞かせください。

- ・最初は小児看護を聞いたことはあったけど内容は詳しく知りませんでした。でも今日身近にあるダンボールやビニール袋で災害時に活用出来る物がある事を知り今後活かそうと思いました。看護学生は思っていた以上にかっこよくて改めて看護師になろうと思えました。
- ・実際に実習を見させてもらったり、お話を聞いたりして、看護師さんが災害時にも現場で懸命に様々な角度から看護を行っていることがわかった。また、スライドやレポートに関していただいたアドバイスはどれも的確でとても参考になった。
- ・准教授の先生の話聞いて、災害時の子どものことについて、あまり考えたことがなかったので、いろんなことを知れました。また、体験談のお話もお聞きできて、被災した方だけでなく助けに行く人々の心のケアも必要だと分かりました。日本は災害が多い国なので災害の知識をたくさん吸収でき、勉強になりました。

質問2：その他（もっと知りたいこと、質問できなかったことなど）何でもお書きください。

- ・質問したら、丁寧に教えてくださりありがとうございました。そのおかげで自分のなりたい看護師像がはっきりわかってきて、とてもいい機会になりました。

以上

小児看護方法Ⅰ「子どもの一次救命と災害看護演習」に参加して

・今回、演習に参加し、学生さんたちの授業の様子を見たり、先生のお話を聴いたりすることができました。先生は、災害時の子どものことを中心に、日赤病院での体験も含めて、お話ししてくださいました。一番印象的だったことは、災害時に被災した方だけでなく、現地に行って助ける医師や看護師も悲惨な光景を目にして心を痛めるので、心のケアが必要だということです。助けに行く人も心のケアが必要とは考えたことがなかったので、大事なことを知れたなと思いました。また、私は、ただ「看護師になりたい」ではなく「どんな看護師になりたいか」を考えていきたいと思っていました。先生に岐阜県の課題やどんな看護師が必要とされているかを質問したことで、自分のなりたい看護師像がはっきりわかってきて、とてもいい機会になりました。将来なりたい姿が決まったので、これからはそれに向かって頑張っていきたいです。

・実習では、大学生のみなさんが全てのスペースで、グループで話しながらまじめかつ楽しそうに学んでいて、すてきだと思った。看護師さんが災害時に対応する幅が、子どもをあやすところまで及んでいて、看護師さんの頼もしさを深く感じることもできた。また、探究のスライドを見てもらった際、持っているデータの出し方や見せ方、文章での説明について細かくアドバイスをいただけたうえ、助産師・保健師といった専門的な視点から意見をいただけて、とてもためになった。今回のアドバイスを探究のレポートとスライドに反映させて、よりよいものを作りたい。

・看護師は患者の治療やお世話だけをすると思っていたが、災害時における被災者のメンタルケアなども受け持つことがわかった。事実に基づく被災者の証言の中で「兄ちゃんと同じ夢がある。どんな津波にも負けない堤防を作ること」という言葉を聞いて、目頭が熱くなりました。災害は繰り返されるのであり、いつ起こるのかはわかりません。しかし、災害が起きたときに少しでも早く非難できるように準備しておくことが大事だと思いました。将来、自分が進みたい学部は看護じゃないかもしれないけど、知らなかった看護の一面が知れて、職業選択の幅が広がったと思います。

・大学では、どのような雰囲気で行っているのか気になっていたもので、貴重な経験になりました。グループに分かれていろいろなことを学んでいることに驚きました。探究のレポートとパワーポイントをみてもらって、自分たちでは気づかなかった点を指摘してもらい、新たな発見があってよかったなと思いました。今回の経験を通して将来のことをより考えることができたし、レポートをよりよいものにしたいです。

・災害が起きたときに、看護師という立場でどのような支援・救護ができるかということについて、たくさん学ぶことができた。災害時には、救護に必要なものがそろっていないことがほとんどなので、身近にあるタイツやストッキングなどを包帯のかわりに使って頭を保護したり、タオルで赤ちゃんの抱っこひもを作ったりして、身近なもので代用することが大切だとわかった。

・災害時に身近にあるダンボールやストッキング・タオルなどで日常使えるものが作れることを知りました。一番驚いたのは段ボールでイスを作ることで、小さなダンボールに少し工夫するだけで、体重が70kgまで支えられることを学びました。心肺蘇生法では、3歳児は大人と違い片手で行うことを学びました。学生の方は、自分たちで調べ、演習をされていて、尊敬したし、私も、今勉強をして将来こうなりたいと思えるようになりました。



Ⅱ．専門職を磨く教育プログラム

令和 6 年度 専門職を磨く教育プログラム活動報告書

1. 本プログラムの目標

時代と地域のニーズに応じて専門的知識・技術を提供できる看護職者を育成する。
専門職者として活躍できる場をつくる。

2. プログラム目標を達成するための本年度の戦略

- 1) 臨床看護師等やその他の要望をもとにした研修会の開催・継続的なかわり
- 2) 臨床で働く看護師との交流の機会の増加
- 3) 卒業生相談窓口の管理・運営

3. 本年度の振り返り

- ・ 外部の各種団体（岐阜県、海津市、名古屋市の各教育委員会）や岐阜大学医学部附属病院（看護部、地域医療医学センター）からの要望をもとに、性に関する指導や性の多様性、女性を対象とした健康教室、テキストマイニングなどの講演を計 5 回（うち 1 回は Zoom 開催）実施し、参加者は 354 名であった。研修会の参加者は専門職（看護師・医師）の他に、学校関係者と保護者、一般の方と様々であった。この活動を通して、看護職の専門性を活かした社会貢献に寄与することができた。
- ・ 今年度初めて、大学院修了生のホームカミングデイを企画し、修了生と大学院生が交流できる機会を設けた。参加者は、修了生・在校生・教員合計 17 名であった。それぞれの近況報告や困りごとなどを共有し、有意義な交流となった。
- ・ 卒業生相談窓口へ 2 件の相談があった。いずれも進路に関する内容であり、該当する部署へ対応を依頼した。

4. 次年度への取り組み

- 1) 臨床看護師の看護実践能力向上に向けた研修会等の開催
 - ・ 看護専門職を中心に、専門的知識や技術を獲得できるための講習会や講演会を実施する。
 - ・ 看護学科教員が看護専門職として、講習会や講演会の講師を担い、専門職としての活動の範囲を拓くとともに、一般の方の健康増進にも寄与する。
- 2) ホームカミングデイ・在校生交流会の開催
 - ・ 卒業生と在校生の交流をする場合は、国家試験勉強の仕方や、試験会場の雰囲気など、4 年生の興味関心が高い内容も盛り込み開催する。
 - ・ 大学院修了生のホームカミングデイは、対象者が就労していることを考慮し、参加しやすい時期や時間を検討し開催する。
- 3) 卒業生相談窓口の管理・運営の継続
 - ・ 卒業予定の学生への卒業生相談窓口について周知する。
 - ・ 相談窓口に寄せられた相談に対する対応する。

LGBT・性別不合（性同一性障害）と医療

《主催者・共催者（医学部看護学科）より》

LGBT や性別不合（性同一性障害）について医療に携わる者が知ることは重要であると言われていたますが、情報を得る機が少ない現状です。そこでこのたび、簡単な基礎知識の講義と LGBT 当事者さんおよびご家族との交流を通して、医療者として考える機会にしたいとの思いから、今年も看護部の協力をいただき、この研修会を開催させていただいております。

《主催者および特定非営利法人 ASTA より、研修会当日にお願いしたいこと》

- ・恐れ入りますが、アンケートへの協力とご寄付をお願いしたいので、筆記用具と、できればお財布もお持ちください。
- ・どうぞ、ASTA の活動を、資金面でもご支援ください。



1口500円以上で、Ally（支援者）Goods（キーホルダー、マグネット等）をおわけいたします。

ご寄付は ASTA の活動（学校、企業等への出張研修）資金として活用いたしますので、どうぞ協力をお願いします。

日時：令和6年10月28日（月） 14:30～16:30

講師：井關敦子（医学部看護学科） 松岡成子（特定非営利活動法人 ASTA 代表）

会場：岐阜大学医学部附属病院 1階 多目的ホール

対象者：看護職、事務職、多職種

定員：25～30名程度

申し込み方法：タイムリフォーマーから入力して下さい。10月4日（金）までをお願いします。

研修に関する問い合わせ：岐阜大学医学部附属病院看護部 杉原博子（内線：7903）

《タイムスケジュール》

時間	内容	時間	内容
14:30-15:00	基礎知識（松岡）	15:25-15:45	グループワーク①
15:00-15:25	井關（岐阜大学）	15:45-16:05	グループワーク②
		16:05-16:25	グループワーク③
		16:25-16:30	アンケート



主催：LGBT および性別不合の理解を社会に促す研究会（代表：岐阜大学医学部看護学科 母性看護学 井關敦子）

共催：岐阜大学医学部看護学科 地域貢献事業

協力：岐阜大学医学部附属病院看護部

特定非営利活動法人 ASTA（本部：名古屋市瑞穂区）

（教職員/保護者/児童生徒/企業に向けて性の多様性や人権の啓発活動を実施）

LGBTQ+研修会 実施報告【アンケート結果】

場所：岐阜大学医学部附属病院1階、多目的ホール

日時：令和6年10月28日(月) 14:30~16:30

参加者：30名（看護職、ドクタークラーク・事務職、看護学生、他）

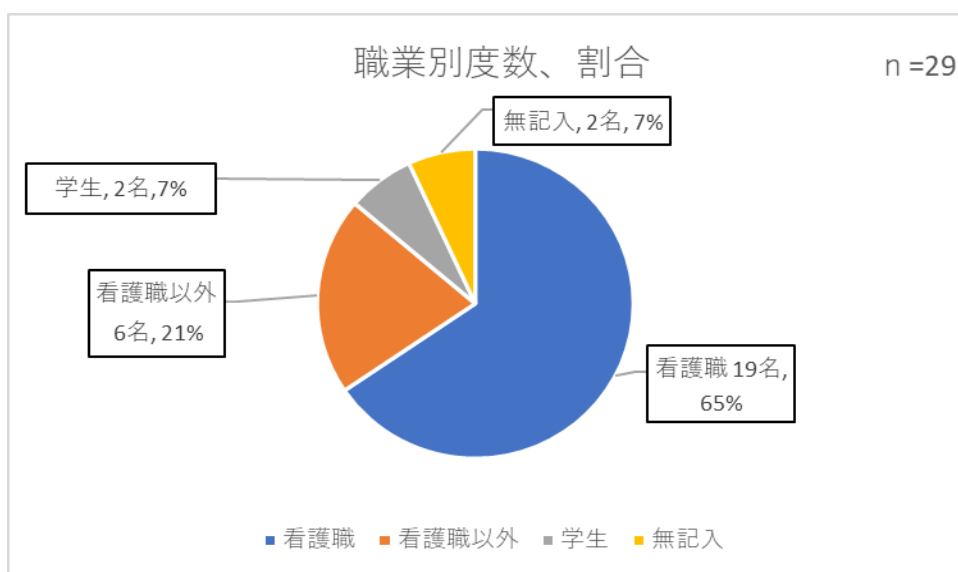
方法：①基礎知識講義（NPO 法人 ASTA 代表：松岡 看護学科教員：井關）

②ライフヒストリー講話（当事者2名、保護者2名） ③質疑応答

評価：無記名自記式アンケート 29/30回収（回収率96.6%）

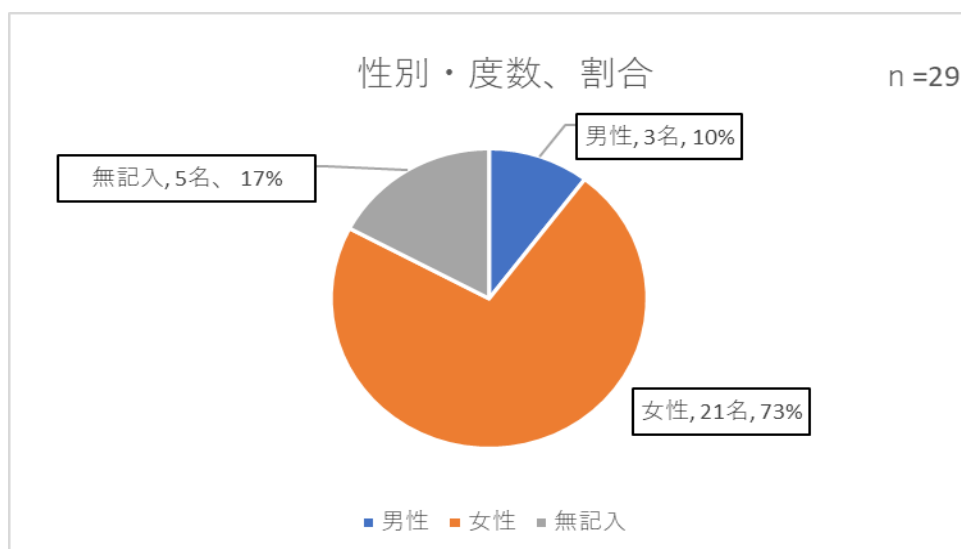
I.職種

看護職が19名(65%)で最も多かった。次いで、看護職以外6名（21%）、看護学生2名（7%）を占めていた。



II.法律上の性別

女性21名（73%）、男性が3名（10%）であった、どちらでもないは0名であったが、そのいずれにも無記入が5名(17%)であった。



Ⅲ.研修内容について

1. 基礎知識(NPO法人代表 松岡様担当)

- ・わかりやすかった。
- ・LGBTQ+の意味が分かった
- ・LGBTQ の人の割合が思ったより多いことが分かった。
- ・これまで、分かっていると思い込んでいたが、実はわかっていないことに気づいた。
- ・話を十分聴いていく必要があると感じた。
- ・性別と恋愛感情が別であることが分かった。
- ・自分が悪気無くても、相手を傷つけているかもしれないと思い、言葉の選択は大事だ。
- ・就活のため、姓を変えそのために死去した人のことを知った。安全な手術方法はないものか。保険適応になればよいのに

2. 基礎知識(井關担当)

- ・早期からの教育が必要だと感じた。
- ・自身の病院の問題点がわかった。
- ・私たちがLGBTQ の人達を理解することが、安心して暮らせる環境の提供につながると感じた。
- ・“知らない、分からない”を防いでいくことがすべての人の幸せにつながる。
- ・世界に比べ、日本の同性婚は遅れているのではないかと感じた。
- ・性を変え、手術したことを後悔している人のことを知った。本人のニーズをとらえて個人にあったケアが大切だ。

3. 当事者および保護者(4名)によるライフヒストリー講話

- ・偏見、無意識な差別をなくすために、言葉のチョイスを考えていきたい
- ・親へのカミングアウトが大変だったことが分かった。
- ・高校3年間トイレに行けないことを聞き、胸が苦しくなった。
- ・親として、話を聞いたので、“自分なら”と考え、切なくなった。少なくとも、子どもの応援者でいたい。

4. その他【自由記述】

- ・医療者として ALLY になれるよう自分の言葉、接し方を見直していきたい。
- ・診察券の女性欄を何度も消していた人がいたことを思い出した。私はその人に十分な対応出来なかったことを反省した。
- ・ALLY を可視化していく。
- ・人を対象とする看護師にとって良い学びになった。

以上

作成者：魚住、井關



岐阜大学医学部・同附属病院
みんなの就労支援の会

第3回HIMAWARIラウンジ勉強会

～医学科・看護学科 合同勉強会～

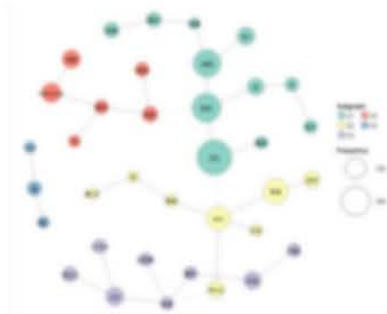
2025/03/03 MON. 12:00-13:00

会場：HIMAWARIラウンジ

医学部本館1F西側（弁当持ち込み可）

テキストマイニングってなあに？

自然言語処理を用いてテキストデータから有益な情報を抽出するテキストマイニング。医療や教育分野の研究にどのように活用していけるか、基本概念と実践方法を学びます。



講師

医学部看護学科地域生涯発達看護学講座
成人看護学分野（急性期）

高橋 由起子 教授

現地 or Zoomでハイブリッド開催



お申し込みはこちらから→

3/3 第3回 HIMAWARIラウンジ勉強会
申し込み



お問い合わせ

内線6539 | himawari@t.gifu-u.ac.jp

岐阜大学医学部附属地域医療医学センター



※この勉強会は岐阜県女性医師等就労環境改善事業費補助金を利用し開催します

岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会

専門職を磨く教育プログラム

大学院修了生・大学院生交流会

大学院修了生・大学院生！！ この指とまれ



この春で、岐阜大学医学系研究科看護学専攻の修了生は100名を超えました。修了生の方はあらゆる場所で、看護職・教育職としてご活躍されていると思います。

そこで、今回は大学院修了生・大学院生の方の交流の場「大学院修了生・大学院生！！この指とまれ」を開催いたします。

それぞれの場所で頑張っている皆さんの情報交換できる機会になればと思います。ぜひご参加ください。皆さんの参加をお待ちしております。

開催日時

2024年8月23日（金）14：00～16：00

スケジュール

◆14：00～ 開会挨拶

◆14：10～ 交流会

お困りごと相談

大学院修了後の研究継続について

教育方法支援について・キャリアアップについてなど

◆15：50～ 閉会挨拶

会場

岐阜大学医学部看護学科 講義室1

対象

岐阜大学医学系研究科看護学専攻 大学院修了生・大学院生

申込方法

岐阜大学医学部看護学科プロジェクト
sien_gun@t.gifu-u.ac.jp

問い合わせ

岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会

岐阜大学医学部看護学科プロジェクト

TEL 058-293-3218 〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1

E-Mail sien_gun@t.gifu-u.ac.jp



第1回 大学院修了生・大学院生交流会アンケート結果

開催日時：令和6年8月23日（金）13時～16時10分

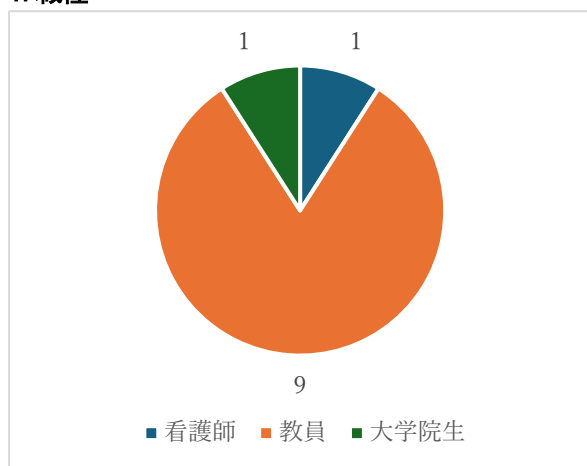
場 所：看護学科棟 講義室1

参 加 者：大学院修了生10名、大学院生1名、教員6名

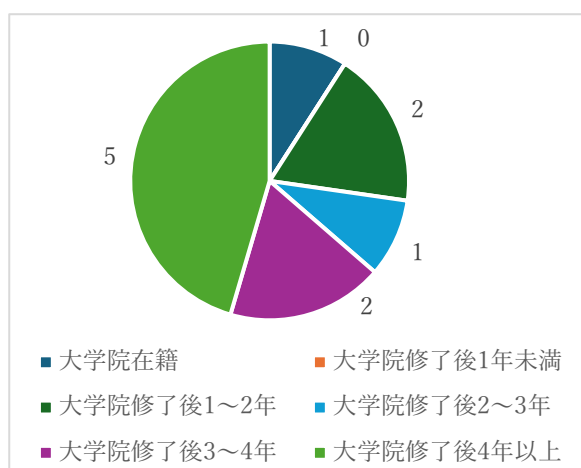
アンケート結果

I. ご自身についてお伺いします。

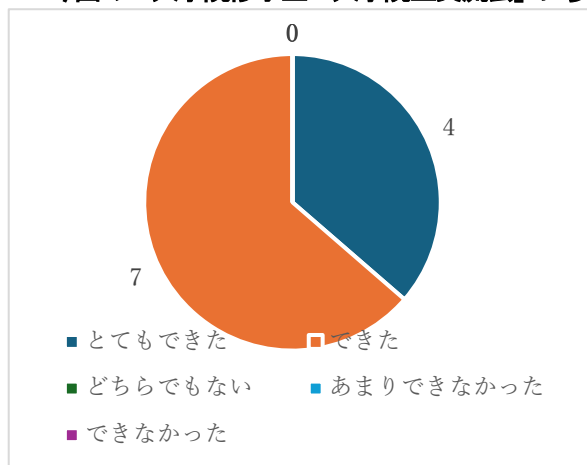
1. 職種



2. 大学院修了後の年数

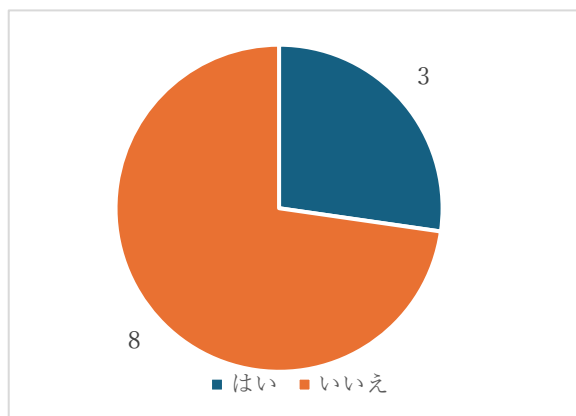


II. 今回の「大学院修了生・大学院生交流会」に参加して、仲間と交流できましたか。



- ・修了後教員として活躍する先輩方の様々な意見を聞くことができた。

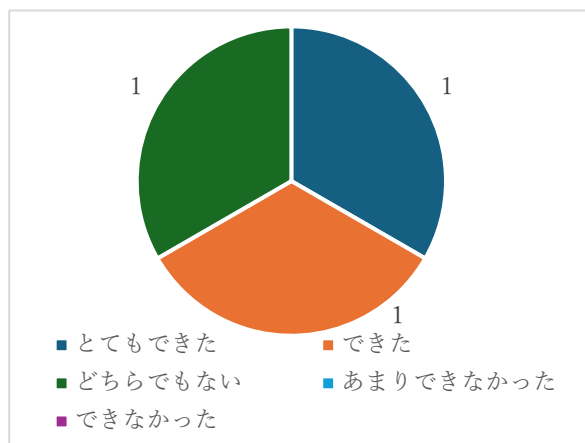
III-1. 今困っていることはありますか。



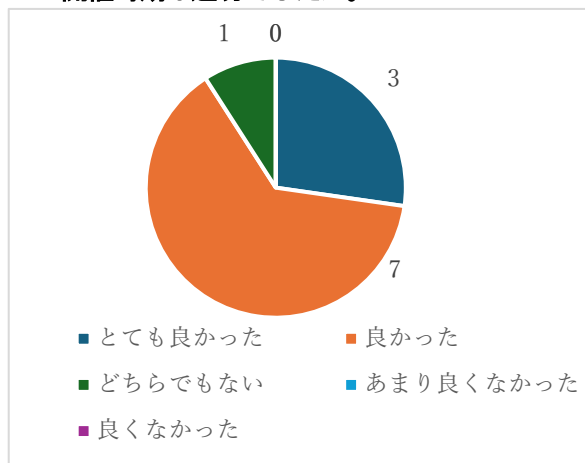
- ・研究計画で困っています
- ・博士への進学
- ・研究指導者が欲しいです

Ⅲ-2. Ⅲ-1で「はい」と答えられた方にお尋ねします。

今回の「大学院修了生・大学院生交流会」に参加して、困りごとの糸口は見つけられましたか。

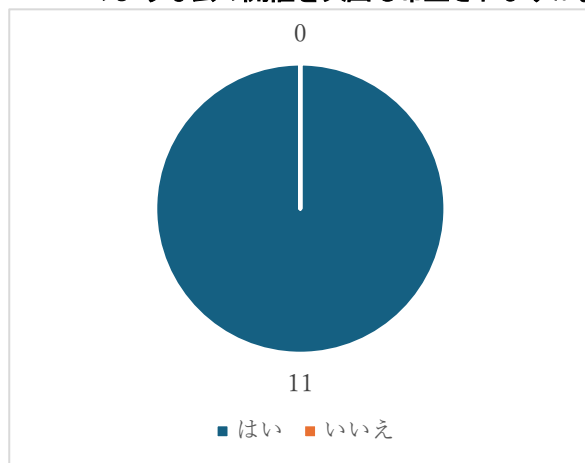


Ⅳ. 開催時期は適切でしたか。



- ・8～9月なら参加できそうです。
- ・この時期で業務も落ち着きよい。
- ・夜間でないため、他の院生さんが参加しづらかったのではないかと思います。

Ⅴ. このような会の開催を次回も希望されますか。



Ⅵ. 今回の「大学院修了生・大学院生交流会」についてご意見などご自由にお書きください。

- ・色々な方と話せる機会となり楽しかったです。3～5年に1回の頻度なら参加しても良いかなと思いました。
- ・いつもお世話になりありがとうございます。修了後もたくさん相談にのっていただき、本当にありがとうございます。
- ・同期の方が当日知ったと言っていらっしゃって、周知がもっと必要だったかもしれません。

岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会

専門職を磨く教育プログラム(卒業生支援)

卒業生相談窓口のご案内



岐阜大学医学部看護学科社会貢献部会では、卒業生のための相談窓口を令和2年度に開設し、これまでも研究相談や進路相談などの多くの相談を受けてきました。

就職後も困ったこと・就業相談・進路相談・研究相談・メンタルヘルス相談などどんなことでも、まずはお気軽にご連絡・ご相談ください。専門職を磨く教育プログラム担当者が窓口となり、適切に対応できる教員等をご紹介します。

個人情報 は 厳重に 保護いたしますので、ご安心ください。

sien_gun@t.gifu-u.ac.jp もしくはQRコードへ送信ください。

文面に①～④について 差し支えない範囲で記載して送信ください。

① 卒業年度 ② 氏名 ③ 就業場所 ④ 相談内容



問い合わせ

岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会

岐阜大学医学部看護学科プロジェクト

TEL 058-293-3218 〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1

E-Mail sien_gun@t.gifu-u.ac.jp



Ⅲ. 看護研究支援プログラム

令和6年度 看護研究研修会 報告書

1. 目的

看護の質の向上のためには、看護研究は欠かせないものとなっているが、臨床における看護研究に対するサポート体制は、各機関によってさまざまである。そこで、岐阜大学医学部看護学科社会貢献部会の看護研究支援班においては、初めて看護研究に取り組むことになった看護職及び看護研究に行き詰まっている看護職を対象に、基本的な看護研究に関する知識や技術の向上に資する看護研究研修会を定期開催する。この研修会を通して、岐阜県の看護専門職が研究活動を通して自らの専門性を磨くことを支援する。

2. 目標

- 1) 新型コロナウイルス感染症の動向を鑑み、感染対策を継続して看護研究研修会を運営する。
- 2) 看護研究研修会の開催を対面と Zoom の双方を用いたハイブリッド型で行う。

3. 活動内容

1) 岐阜大学における看護研究研修会

2024 年 3 月～2025 年 1 月にかけて、看護研究研修会を 5 回実施した。5 回の研修会の延べ参加者数は、161 名であった。

	日程	内容	時間	参加者数
第1回	2024 年 3 月 19 日 (火曜日)	講義（担当：前田由紀） ・テーマの見つけ方 ・文献の入手の仕方 個別相談会（担当：全員）	13：30～17：00 ・13：30～15：00 講義 ・15：00～17：00 相談	47 名 【内訳】 会場 12 名 Web 35 名
第2回	2024 年 5 月 29 日 (水曜日)	講義（担当：三尾亜喜代） ・質的研究の初歩 ・インタビューのすすめ方 個別相談会（担当：全員）	13：30～17：00 ・13：30～15：00 講義 ・15：00～17：00 相談	39 名 【内訳】 会場 10 名 Web 29 名
第3回	2024 年 8 月 27 日 (火曜日)	講義（担当：西田友子） ・アンケートの作り方 ・量的結果のよみとき方 個別相談会（担当：全員）	13：30～17：00 ・13：30～15：00 講義 ・15：00～17：00 相談	41 名 【内訳】 会場 11 名 Web 30 名
第4回	2024 年 11 月 26 日 (火曜日)	個別相談会（担当：全員）	13：30～17：00	18 名 【内訳】 会場 0 名 Web 18 名
第5回	2025 年 1 月 26 日 (火曜日)	個別相談会（担当：全員）	13：30～17：00	16 名 【内訳】 会場 0 名 Web 16 名

2) 出張における看護研究研修会

今年度、出張での看護研究研修会は1件の依頼があり実施した。参加者は10名であった。

日程：2024年9月25日（水）

会場：岐阜大学医学部附属病院（参加者10名）

内容：質的研究の初歩およびインタビューのすすめ方（担当 三尾亜喜代）

4. 活動評価および課題

これまでは、研究活動に初めて取り組む看護師とともに、研究活動に取り組んでいる中で行き詰まりを感じている看護師も対象に、看護研究研修会を実施してきた。研修会後のアンケート中で、参加者から「分かりやすい」という言葉と「難しい」という言葉を同時にいただくことがみられ、参加者の経験の幅が大きいことが要因にあるのではないかと考えた。そこで、次年度は、主な参加対象を研究活動に初めて取り組む看護師として、研修会講義の内容を構成し、参加者の経験に適した難しさ・内容の研修会を目指すこととする。

令和6年3月19日 第1回看護研究研修会（講義・個別相談）アンケート結果

アンケート実施日：2024年3月19日（火）

研修参加者数：47名＝講義47（対面12名、Zoom35名）

個別相談39名（対面11名、Zoom28名）

アンケート配布部数：47部（QRコードによるWEBアンケート）

回収部数9部（回収率19.1%）

I. アンケート対象者

n=9

		人数	%
1) 現在の職場での経験年数	① 10年以上	4	44.4
	② 10年未満	5	55.6
4) 研究実施経験 （複数回答可）	① ない	7	46.7
	② ある	8	53.3
【ある】の内容 （複数回答可）	① 院内発表	6	75.0
	② 看護協会等での県内発表	2	25.0
	③ 学術集会等の全国学会での発表	4	50.0
	④ その他（未記入）	1	12.5

II. 本日の研修会について

1. どのように研修会を知ったか	① 前回のお知らせ	0	0.0
	② ダイレクトメール	1	11.1
	③ ホームページ	0	0.0
	④ 病院から	1	11.1
	⑤ 研修会案内資料	2	22.2
	⑥ 院内掲示	1	11.1
	⑦ 職場からの紹介	2	22.2
	⑧ 上司からの推薦	1	11.1
	⑨ 回答なし	1	11.1
2. 参加の経緯	① 自分の希望	5	55.6
	② 上司からの推薦	3	33.3
	③ 組織からの派遣	0	0.0
	④ 先輩からの誘いを受けて	1	11.1
3. 講演の内容は満今後の看護研究に活かすことができそうか	① 活かそう	8	88.9
	② 少し活かそう	0	0.0
	③ どちらでもない	1	11.1
	④ あまり行かせそうにない	0	0.0
	⑤ 活かそうにない	0	0.0
【上記の回答理由】	・どのように進めていけば良いか分からなかったため、取り組み方から学べた為。 ・わかりやすかった。 ・一年の流れについて知ることができた。 ・研究の取り掛かりや考え方について、分かりやすく教えて頂いたこと		

	で、直面する気がかりに研究の必要性があると考えることができたため。 - 研究の定義や流れを理解できた。 - 研究はハードルが高いと思っていたが、身近な疑問や悩みからテーマを見つければよいことがとてもわかりやすかった。 - 初心者なので。		
4. 個別・施設単位の相談は満足できる内容であったか	① 満足 ② やや満足 ③ どちらでもない ④ やや不満足 ⑤ 不満足 ⑥ 回答なし	4 0 1 0 0 4	44.4 0.0 11.1 0.0 0.0 44.4
【上記の回答理由】	- どのような内容で研究を行うか迷っていましたが、今回の個別相談会で相談させて頂く事で、具体的な方向性を見いだせました。看護研究はなかなか難しいイメージがある中で、このような研修会を開いていただけることはとても有意義なことだと思うので、これからも開催よろしくお願いします。 - わかりやすかった - 個別の相談で、気がかりについて掘り下げて話を聞いて頂くことで、研究の方向性について導きだすことができました。		
5. 個別・施設単位の相談は、今後の看護研究活動に活かすことができそうですか	① 活かせそう ② 少し活かせそう ③ どちらでもない ④ あまり行かせそうにない ⑤ 活かせそうにない ⑥ 回答なし	4 0 1 0 0 4	44.4 0.0 11.1 0.0 0.0 44.4
【上記の回答理由】	- 看護研究について学んだり、相談できる場所というのは数多くないため、このような研修会があることはとてもいいことだと思います。 - 納得できた。		

Ⅲ. その他（意見等）

- 次回参加までの間に、研究の相談ができる場所や窓口の案内がいただけるよう、ご検討をお願いします。

令和6年5月29日 第2回看護研究研修会（講義・個別相談）アンケート結果

アンケート実施日：2024年5月29日（水）

研修参加者数：39名＝講義39（対面10名、Zoom29名）

個別相談33名（対面6名、Zoom27名）

アンケート配布部数：39部（QRコードによるWEBアンケート）

回収部数23部（回収率59.0%）

I. アンケート対象者

n=23

		人数	%
1) 現在の職場での経験年数	① 1～5年	9	42.9
	② 6～10年	4	19.0
	③ 10年以上	8	38.1
4) 研究についての教育経験	① ない	12	54.5
	② ある	10	45.5
【ある】の内容 (複数回答可)	① 大学	5	50.0
	② 看護協会等での研修会	2	20.0
	③ 第1回看護研究研修会	1	10.0
	④ 専門学校	1	10.0

II. 本日の研修会について

1. どのように研修会を知ったか	① 前回のお知らせ	19	82.6
	② ダイレクトメール	0	
	③ ホームページ	1	4.3
	④ 病院から	3	12.9
2. 参加の経緯	① 自分の希望	7	31.8
	② 上司からの推薦	6	27.3
	③ 組織からの派遣	6	27.3
	④ 研究チームのため	1	4.5
	⑤ 看護研究の研修案内	1	4.5
	⑥ 無回答	1	4.5
3. 講演の内容は満今後の看護研究に活かすことができそうか	① 活かそう	9	40.9
	② 少し活かそう	11	50.0
	③ どちらでもない	2	9.1
【上記の回答理由】	・ 分かりやすかった ・ 理解できたところは活かそうです ・ これまで事例研究は実施していますが、質的研究を学んだ機会がなかったので、新たな学びをえることができました。 ・ ちょっと難しい ・ 質的研究の講義は初めてであったので ・ 質的研究の大変さがわかった ・ 研究に質的研究を用いるから ・ 質的. 量的研究をどちらも聞きたかった ・ 質的研究を行うが、研究される対象者の視点に立つことや、対象者と良い関係を構築して行いたいと思った。データの分析を行		

	う時も参考にしたいと思う ・とても分かりやすく、理解ができました		
4. 個別・施設単位の相談は満足できる内容であったか 回答 6 件	① 満足 ② やや満足	10 6 1	58.8 35.3 5.9
【上記の回答理由】	・丁寧に分かりやすく返答いただいた ・説明わかりやすかったです ・事前に資料を確認していただいていたので、的確なアドバイスを受けることができたと思う。 ・具体的にアドレスいただき、今後に繋げることができた ・参考になるアドバイスが頂けてありがたかったです。 ・どのように取り組んで行ったらいいのかがわかりやすかった。 ・研究の意義があるのか不安な気持ちがあったが、意義があると言っていたので心強く感じた。 ・老年看護をしておられる先生で、事前に自分達の資料等しっかり見て下さっており、質問しやすかった。自分達の思いなど理解があり、とてもありがたかった。 ・質問に明確にお答えしていただいた		
5. 個別・施設単位の相談は、今後の看護研究活動に活かすことができそうですか	① 活かせそう ② 少し活かせそう	7 9	43.8 56.3
【上記の回答理由】	・焦点を絞ることのアドバイスが的確 ・研究方法について検討の際に役に立ちそうです ・丁寧に質問内容を教えていただいたから。 ・頑張ってまとめます ・研究内容で迷いがあった部分についてアドバイスしてもらえたのでよかった ・上記同様の理由により、活かせると感じた ・具体的な質問をすることができる		

Ⅲ. その他（意見等）

- ・資料ページと画面のページ数が違うので一時的に混乱した
- ・研修動画を後から見られると良い
- ・出来れば対面で受講したいと思い、午前業務を終えてからの参加ですが、開始時間にいつも遅れてしまい、申し訳ありません。
- ・個別相談の回数を増やしていただけるとありがたいです
- ・(Zoom 参加) 声等聞きやすかった

令和6年8月27日 第3回看護研究研修会（講義・個別相談）アンケート結果

アンケート実施日：2024年8月27日（火）

研修参加者数：41名＝講義41（対面11名、Zoom30名）

個別相談31名（対面4名、Zoom27名）

アンケート配布部数：41部（QRコードによるWEBアンケート）

回収部数28部（回収率68.3%）

I. アンケート対象者

n = 28

		人数	%
1) 現在の職場での経験年数	① 1～5年	11	39.3
	② 6～10年	10	60.7
	③ 10年以上	7	25.0
4) 研究についての教育経験	① ない	10	35.7
	② ある	17	60.7
		1	3.6
【ある】の内容 (複数回答可)	① 大学	9	47.4
	② 看護協会等での研修会	7	36.8
	③ 第1・2回看護研究研修会	1	5.3
	④ 無回答	3	15.8

II. 本日の研修会について

1. どのように研修会を知ったか	① 前回のお知らせ	21	75.0
	② ダイレクトメール	1	3.6
	③ ホームページ	1	3.6
	④ 病院・職場から	6	21.4
	⑤ 無回答	1	3.6
2. 参加の経緯	① 自分の希望	12	42.9
	② 上司からの推薦	8	28.6
	③ 組織からの派遣	8	28.6
3. 講演の内容は満今後の看護研究に活かすことができそうか	① 活かそう	17	60.7
	② 少し活かそう	10	35.7
	③ どちらでもない	1	3.6
【上記の回答理由】	・統計がわからなかったため、勉強になった ・アンケートを作成する参考になった ・研究が質的になるかもしれない ・わかりやすかった ・アンケート作成時やグラフの見方で活かそう ・アドバイスが的確 ・どうしていいかわからない ・今困っていることをちょうど聞いてよかった ・量的研究について知れた ・研究アドバイスの際に参考にしたい ・グラフの見方がとても分かり安く参考になった ・アンケートをとる予定のため、まとめていくにあたり、特にグラフに関しては参考になった。 ・アンケート作成について、ポイントが深められた ・活かせる内容でしたが、自分が無知すぎて、難しい内容でした。 ・p値などの基本的なところから学べたため		

	・アンケート作成や検定方法の種類についての説明があり理解しやすかった ・まだ研究内容が決定していないため、量的研究であれば活用できそう ・アンケート方法が理解出来たから		
4. 個別・施設単位の相談は満足できる内容であったか 回答 21 件	① 満足 ② やや満足	16 5	76.2 23.8
【上記の回答理由】	・アドバイスを頂けたので活用できそう ・わかりやすかった ・自分の不安に対して的確にアドバイスをしていただいた。研究を進められると思った。 ・アドバイスしてもらい、迷っていた事に対して自信を持って研究して行けると感じる事ができた。 ・的確な回答だった ・方向性の確認ができた ・とても参考になりました。ありがとうございました。 ・質問したことにより的確にアドバイスを頂けた ・複数からアドバイスをもらうが、それぞれ指摘されることで、混乱することも多く落ち込む。相談会で自分達が進めている方向で間違いないと、確認できた。 ・アンケート内容のポイントがきけたから ・質問により的確にアドバイス頂けたので、すごく参考になりました。穏やかな雰囲気の中で、緊張せずに話せました。 ・質問に対する回答が分かりやすく研究を進める上で参考になった		
5. 個別・施設単位の相談は、今後の看護研究活動に活かすことができそうですか 回答 21 件	① 活かせそう ② 少し活かせそう	17 4	81.0 19.0
【上記の回答理由】	・わかりやすかった ・直接聞きたいことが聞けるのでありがたい。 ・分析方法に活かせる ・頑張れそう ・不安な点が解消されたと思うため ・上記理由より、活かせるアドバイスを頂けた。 ・上記と同様		

Ⅲ. その他（意見等）

- ・今後も是非、講義回数も増やして欲しいです。

（Zoom 参加）

- ・次回もお願いします
- ・遠方へ出向く時間を省き、アドバイスがもらえる点では Zoom はすごくいいと思う。運転する時間を看護研究の時間に使用できるのでありがたい。

令和6年11月26日 第4回看護研究研修会（個別相談）アンケート結果

アンケート実施日：2024年11月26日（火）

研修参加者数：18名（対面0名、Zoom18名）

アンケート配布部数：18部（QRコードによるWEBアンケート）

回収部数13部（回収率 72.2%）

I. アンケート対象者

n=13

		人数	%
1) 現在の職場での経験年数	① 1～5年	9	69.2
	② 6～10年	1	7.7
	③ 10年以上	3	23.1
4) 研究についての教育経験	① ない	6	46.2
	② ある	7	53.8
【ある】の内容 (複数回答可)	① 大学	1	14.3
	② 看護協会等での研修会	2	28.6
	③ e-ラーニング	1	14.3
	④ 無回答	3	42.9

II. 本日の研修会について

1. どのように研修会を知ったか	① 前回のお知らせ	11	84.6
	② ダイレクトメール	1	7.7
	③ ホームページ	0	0.0
	④ 病院・職場から	0	0.0
	⑤ 無回答	1	7.7
2. 参加の経緯	① 自分の希望	9	69.2
	② 上司からの推薦	2	15.4
	③ 組織からの派遣	2	15.4
3-1. 個別・施設単位の相談は満足 できる内容であったか	① 満足	9	69.2
	② やや満足	3	23.1
	③ どちらでもない	1	7.7
	④ やや不満足	0	0.0
	⑤ 不満足	0	0.0
3-2. 【上記の回答理由】	・わかりやすく優しく教えていただいた。 ・聞きたいことは聞けた。 ・悩んでいたことに対して返答が聞けた。 ・平坦な言葉でわかりやすく前向きに指導がもられた。 ・研究について理解不足があった。 ・どの先生も内容を事前にしっかり読み解いて、質問に親身にアドバイスがもられた。 ・適切なアドバイスがもられた。 ・質問に明確に回答がもられた。		

	・迷っていたことが、アドバイスを受けて、解決した。		
4-1. 個別・施設単位の相談は、今後の看護研究活動に活かすことができそうですか	①活かせそう ②少し活かせそう ③どちらでもない ④あまり活かせそうにない ⑤活かせそうにない	11 2 0 0 0	84.6 15.4 0.0 0.0 0.0
4-2. 【上記の回答理由】	・検定方法などアドバイスいただいた。 ・アドバイス内容を考察に取り入れる。 ・考察に対しての細かなアドバイスを頂けたので、今後に活かせる。 ・わかりやすく活用できる。		

Ⅲ. その他（意見等）

- ・この場でアドバイスをいただけることで、研究に自信を持って取り組むことができ、感謝しています。
- ・具体的でわかりやすいアドバイスでした。
- ・大変わかりやすいアドバイスで本当に助かりました。
- ・計画書の段階で、もう少し頻度多くアドバイスの機会があると、有り難いです。

以上

令和6年1月28日 第5回看護研究研修会（個別相談）アンケート結果

アンケート実施日：2025年1月28日（火）

研修参加者数：16名（対面0名、Zoom16名）

アンケート配布部数：6部（QRコードによるWEBアンケート）

回収部数6部（回収率 37.5%）

I. アンケート対象者

n=6

		人数	%
1) 現在の職場での経験年数	① 1～5年 ② 6～10年 ③ 10年以上 ④無回答	3 0 2 1	50.0 0.0 33.3 16.7
4) 研究についての教育経験	① ない ② ある	3 3	50.0 50.0
【ある】の内容 (複数回答可)	① 大学 ② 看護協会等での研修会 ③ e-ラーニング	0 2 1	0.0 66.7 33.3

II. 本日の研修会について

1. どのように研修会を知ったか	① 前回のお知らせ ② ダイレクトメール ③ ホームページ ④ 病院の委員会を通じて ⑤ 院内で紹介があった ⑥ 職場のすすめ	2 0 0 2 1 1	33.3 0.0 0.0 33.3 16.7 16.7
2. 参加の経緯	① 自分の希望 ② 上司からの推薦 ③ 組織からの派遣	1 2 3	16.7 33.3 50.0
3-1. 個別・施設単位の相談は満足できる内容であったか	① 満足 ② やや満足 ③ どちらでもない ④ やや不満足 ⑤ 不満足	6 0 0 0 0	100.0 0.0 0.0 0.0 0.0
3-2. 【上記の回答理由】	・ ポジティブフィードバックで的確なアドバイスをもらえ、前向きに頑張ろうと思えるアドバイスの時間でした。 ・ 病院の委員のアドバイザーのレベルでは回答に困る事も、的確にアドバイスしていただけた、本当にありがたかったです。 ・ 解析がわからないけれど、妥当な意見をまとめてもらえた。 ・ 論文の結果のアドバイスをもらえ		

	て良かったです。 ・先生が優しく楽しくアドバイスくださってありがたかった。 ・私達の悩んでいた内容に的確にアドバイスしてくださり、解決することができました。		
4-1. 個別・施設単位の相談は、今後の看護研究活動に活かすことができそうですか	①活かせそう ②少し活かせそう ③どちらでもない ④あまり活かせそうにない ⑤活かせそうにない	6 0 0 0 0	100.0 0.0 0.0 0.0 0.0
4-2. 【上記の回答理由】	・やはり研究の専門的な知識が不足しているので、恥ずかしながら私たちではレベルが足りないので、今回のような個別・施設単位の相談はとてもとても参考になり、活かすことが出来ました。 ・論文をまとめるにあたり、参考になった。 ・検定のことなどの解釈を教えてください、わかりやすかったです。		

Ⅲ. その他（意見等）

- ・丁寧なご指導、ありがとうございました。

以上

看護研究支援プログラム

看護研究研修会

2024年度 年間予定

岐阜大学医学部看護学科では社会貢献の一環として、看護研究にはじめて取り組む方、看護研究に行き詰っている方を対象に、基本的な看護研究に関する研修会を開催しています。研究を始めるにあたっての不安、疑問などにお応えできたらと思っています。ぜひご参加ください。

回数	日程	内容	時間
第1回	2024年 3月19日（火曜日）	講義 ・テーマのを見つけ方 ・文献の入手の仕方 個別相談会	13:30～17:00 ・13:30～15:00 講義 ・15:00～17:00 相談会
第2回	2024年 5月29日（水曜日）	講義 ・質的研究の初歩 ・インタビューのすすめ方 個別相談会	13:30～17:00 ・13:30～15:00 講義 ・15:00～17:00 相談会
第3回	2024年 8月27日（火曜日）	講義 ・アンケートの作り方 ・量的結果のよみとき方 個別相談会	13:30～17:00 ・13:30～15:00 講義 ・15:00～17:00 相談会
第4回	2024年 11月26日（火曜日）	個別相談会のみ	13:30～17:00 時間予約可
第5回	2025年 1月28日（火曜日）	個別相談会のみ	13:30～17:00 時間予約可

- * 研究相談は、上記日程の個別相談会での対応を基本とします。継続して相談をご希望の場合は、本研修会個別相談会の日程に合わせて申し込みください。
- * 個別相談の対応者は開催日によって変わり、継続相談の際も対応者が変わることがございます。

会場

岐阜大学医学部看護学科棟 講義室

参加費

無料

定員

30名程度

申し込み方法

事前予約を行っていますが、当日参加も可能です。
詳細は各開催回のご案内チラシをホームページでご確認ください。

お願い

ご参加の際はマスクの着用をお願いいたします。

Zoomでの参加可能

予約の際に『リモートでの参加』とお申し込みください。

問い合わせ

岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会

岐阜大学医学部看護学科プロジェクト

TEL 058-293-3218 〒501-1194 岐阜県岐阜市柳戸1番1

E-Mail s_koken@t.gifu-u.ac.jp



岐阜大学

IV. 地域住民健康教育プログラム

令和 6 年度 地域住民健康教育プログラム

1. 目的

地域住民と看護学科教員・学生が交流の機会をとおり、地域住民の看護学科及び看護に対する理解を得るとともに、学生が社会における看護職の役割を認識し、地域住民に貢献する看護職のあり方を追求する。

看護学科が有する人材を始めとし、施設や教材、および教育研究活動の成果等を県内外の個人、集団、組織およびコミュニティ等に活用してもらい、健康の維持・増進、生活の拡充等に寄与する。

2. 今年度の活動目標

- 1) 調査結果に対し、黒野地区地域住民と教員・学生が討議し、住民の健康課題・ニーズに対して、ウィズコロナ・ポストコロナ社会等に対応した実現可能な地域活動計画を立案し、実践する。
- 2) 活動内容・実績を学内外に教員と学生が公表する。
- 3) 地域住民の各活動に学生・教員が参加するための間口を広げる。
- 4) 学生組織の確立を目指し PR 活動を行い、看護学科 1・3 年生の各学年 6%（5 人程度）の学生が組織に加入することを目指す。また、学生組織として社会貢献活動に参画する。

3. 活動実績と評価

今年度は、昨年度までの活動実績・内容を踏まえ、住民の健康課題・ニーズに対応するべく、学生を主体とし、実現可能な地域活動計画を立案・実施した。また、看護学科 1・3 年生の各学年 6%（5 人程度）の学生が組織に加入することを目指し、学生主体で PR 活動を行い、2 年生 23 名の新規部員の確保を行うことができた。しかし、1 年生の部員確保には至らなかった。

上記の活動結果より、今年度の活動目標は一部達成されたが、次年度の活動の中心を担う 1 年生の新規学生部員確保の課題が残った。

以下に、今年度の活動実績を示す。

- 1) 「学生による地域課題解決提案事業 成果報告会」の学内発表会と活動内容の紹介

・開催日：2024 年 4 月 26 日（金）12:10～12:30

・開催場所：講義室 2・3

学生部会の 3 年生（複数名）が、前年度のネットワーク大学コンソーシアム岐阜令和 5 年度「学生による地域健康課題解決提案事業」で報告した「ウィズコロナ・ポストコロナ社会等に対応した世代間交流プロジェクト」の発表、および、学生部会の活動についての

説明が行われた（2. 社会貢献部会地域住民健康教育プログラム 報告会（PDF）参照）。1 年生 25 人程度、2 年生 40 人弱の参加があった。興味を持って聞いているように伺え、多くの 2 年生の参加登録に繋がった。しかし、1 年生の参加登録はなく、学生組織確立への課題が残った。

2) JA 黒野の婦人部の方々と学内ウォーキング

- ・開催日：2024 年 5 月 29 日（水）9:00～10:30・活動場所：岐阜大学構内
- ・参加者：JA 黒野の婦人部 20 名程度、学生 6 名、教員
- ・活動結果：「令和 6 年 5 月 29 日 婦人部との学内ウォーキング振り返りの報告書」参照

3) 黒野地区 民謡保存会への参加

- ・開催日：2024 年 9 月 17 日（火）10:00～11:15
- ・活動場所：黒野会館
- ・参加者：学生 7 名、教員
- ・活動結果：「令和 6 年 9 月 17 日 民謡保存会振り返りの報告書」参照

4) 黒野地区 健康体操への参加

- ・開催日：2024 年 9 月 30 日（火）9:30～11:00
- ・活動場所：黒野会館
- ・参加者：学生 4 名、教員
- ・活動結果：「令和 6 年 9 月 30 日 健康体操振り返りの報告書」参照

5) 学生組織の確立を目指した PR 活動について

- ・在校生への PR として、本年度の活動内容/実績が書かれたチラシを学内に掲示できるよう現在作成中である。作成次第、順次掲示していく。
- ・地域住民への PR として、本年度の活動内容が書かれたチラシを作成し、黒野会館等に掲示できないか黒野地区の方と検討していく予定である。

4. 今年度の振り返りと次年度の課題

1) 活動内容に関して

昨年度の活動の中で、既存の活動に参加することへの要望があることが明らかになったため、本年度は既存の活動に参加することを中心に活動を行った。教員が学生に参加可能な活動の情報を事前に提供し、誰が・いつ・どのような活動に参加するのか、学生が主体となって決定した。本年度は昨年度よりも多くの活動に参加することができ、様々な発達段階・生活背景のある方々と交流することができた。参加者との交流を通して、地域住民の健康観や地域で生活する人の理解を深めることができただけでなく、交流すること自体の楽しさ

や喜びを感じることができた（詳細は別紙報告書参照）。次年度も、今年度の活動を踏まえ、学生主体で継続可能な活動を検討していきたい。

2) 新規学生部員の確保

2024 年度 3 年度末時点での地域貢献活動（地域住民健康教育支援プログラム）への参加登録学生数は 51 名である（2 年生：25 名、3 年生：12 名、4 年生：14 名）。各学年 1-3 年生の各学年 6%（5 人程度）の目標であり、2～4 年生はその目標値に達している。しかし、1 年生の参加者が皆無であるため、次年度は 1 年生・2 年生ともに向け参加者の募集を実施する必要がある。

5. 今年度の活動メンバー

田中千絵（前期プログラムリーダー）、小林和成（後期プログラムリーダー）、
阿部誠人（前期リーダー補佐）、瀬瀬朋弥、柿田さおり（後期リーダー補佐）

婦人部との学内ウォーキング振り返りの報告書

- 1 参加者 岐阜大学医学部看護学科3年 坪川凜香、水野麻衣、大畑いお、後藤咲季、佐分萌乃、大坪さくら
- 2 日時 令和6年5月29日(水) 9:00-10:30
- 3 活動場所 岐阜大学医学部看護学科 岐阜県岐阜市柳戸1-1
- 4 活動目的 黒野に住む地域の方との交流のため。
- 5 当日のスケジュールと活動内容

- 9:00 婦人部の皆さん 古町出発
看護学科に学生集合 打ち合わせ
- 9:30 婦人部の皆さん 学生
大学内図書館前噴水広場に集合
記念撮影
- 9:45 噴水前→体育館裏→看護学科
→医学部食道前 記念碑
- 10:30 解散

※実際は看護学科訪問後、川の橋を渡り
医学部前の記念碑に向かった



6 所感

ウォーキングを行った。参加者の皆さんは、健康意識が非常に高く、日々の運動の大切さを実感していることがうかがえた。特に高齢者の方々の積極的な姿勢が印象的で、年齢に関係なく体を動かすことへの意欲が感じられた。ウォーキング中も笑顔が絶えず、和やかな雰囲気の中で活動することができ嬉しく思った。

また、ウォーキング中には、道端に咲いている花を見つけると、皆さんが足を止めて写真を撮る様子が見られた。花が好きな方が多く、「きれいな花を見ると心が和む」「花のフォルダを作って見返してるの」といった声があり、自然の中で過ごすことの心地よさも共有できたと思う。このように自然や季節の移り変わりを楽しむ姿勢は、心の健康にも良い影響を与えているのではないかと考えた。

今回のウォーキングは、参加者同士のコミュニケーションを深める機会にもなり、大学生と高齢者が世代を超えて交流することで、お互いに新たな刺激や発見があったように思う。健康意識を高めつつ、自然を楽しみ、世代間のつながりを感じられた充実した時間となった。参加者からは「また大学内をウォーキングしたい」という声があったため、今後も地域の方々と交流できる機会を増やし、継続していければと思った。

今回のウォーキングは、参加者同士のコミュニケーションを深める機会にもなり、大学生と高齢者が世代を超えて交流することで、お互いに新たな刺激や発見があったように思う。健康意識を高めつつ、自然を楽しみ、世代間のつながりを感じられた充実した時間となった。参加者からは「また大学内をウォーキングしたい」という声があったため、今後も地域の方々と交流できる機会を増やし、継続していければと思った。



民謡保存会振り返りの報告書

- 1 参加者 岐阜大学医学部看護学科2年 白木紀羽、三輪優希、山中結月、浅井理未、
渡邊遙南、平尾春乃、川上凜乃
- 2 日時 令和6年9月17日(火) 10:00-11:15
- 3 活動場所 黒野会館 岐阜県岐阜市下鶴飼 1564-3
- 4 活動目的 民謡保存会に参加する地域の方との交流のため
- 5 当日のスケジュールと活動内容
 - 9:50 黒野会館で入り口 学生集合
 - 10:00 民謡保存会 活動開始
 - 「あゝ黒野城下町」を歌った
 - 歌いながら筋肉体操を行った(参加者が円になって体を動かす)
 - 「黒野音頭」「春駒」などの踊りを習い、参加者同士で実際に踊りの動きを練習した
 - 10:40 参加者の方との交流
 - 11:00 解散
- 6 所感

歌いながら筋肉体操を行う中で、参加者が円になって体を動かすことで、リズムに合わせて自然と一体感が生まれると感じられた。踊りは手足を動かす動作が多く、筋力のトレーニングにもなると感じた。また、歌によって左右どちらの足から始めるかが異なるため、踊りの中で自然と考えながら動くことが求められ、思考のトレーニングにもつながっていると考えられる。このように、体を動かす楽しさに加え、筋力や思考力の向上にも役立つ要素が含まれていた。



当日の参加者は約20名で、多くが女性であった。友人同士での参加が多く、顔見知りの方も多かったため、参加者同士の交流も盛んに見られた。こうした交流が、会の一体感や参加者の満足度向上につながっていたと思われる。

参加者へのインタビューを実施し、参加のきっかけについて尋ねたところ、多くの方が「友人からの誘い」や「黒野会館の掲示板の案内」、「昔の踊りに興味があり関心を持った」などと回答した。このことから、身近な人からの勧めや地域の情報揭示、伝統文化への関心が参加意欲を高める要因となっていることがわかる。今後の参加促進においても、これらの要因を活かした広報方法が有効であると考えられる。

今回の踊りの体験を通じて、参加者は健康意識を高める多くの要素を体感できたと考えられる。まず、踊り自体が筋力のトレーニングになるため、参加者は楽しみながら体を動かすことができ、体力向上にも寄与し、健康的なライフスタイルを促進する機会となるだろう。さらに、みなで集まることで交流の場が生まれる。このような集まりは、参加者同士がお互いの元気な様子を確かめ合う場にもなり、社会的なつながりを深める効果もある。心の健康にとっても、他者との交流は重要であり、こうした活動がストレスの軽減やメンタルヘルスの向上につながることを期待される。総じて、今回の踊りの体験は、身体的な

健康のみならず、社会的なつながりやメンタルヘルスを意識する機会となり、参加者がより健康的な生活を送るためのきっかけを提供するものであると感じた。

踊り体験を通じて、初めは難しそうで自分ができるか不安を感じていた。しかし、地域の方々が優しく指導してくださったおかげで、次第に踊れるようになり、そのことに大変嬉しく思った。また、昔の文化に触れることで、地域の伝統や歴史を再認識し、その価値を深く理解する機会となったと感じた。この体験は、地域の文化を大切にし、次世代に伝えていく重要性を考えさせられるものであった。

健康体操振り返りの報告書

- 1 参加者 岐阜大学医学部看護学科2年 渡邊遙南、平尾春乃、堀里奈子、伊藤由樹那
- 2 日時 令和6年9月30日(火) 9:30-11:00
- 3 活動場所 黒野会館 岐阜県岐阜市下鶴飼 1564-3
- 4 活動目的 健康体操に参加する地域の方との交流のため
- 5 当日のスケジュールと活動内容
 - 9:30～ タオルを使用したタオル体操
 - ゴムを使用したゴム体操
 - (約15分) 学生と健康体操参加者の方と交流(学生1人に対し、6～7人の参加者)
 - ～11:00 黒野会館祭りで披露する予定である「残酷な天使のテーゼ」の曲に合わせたダンス
 - 各体操間に水分摂取の休憩
- 6 所感

健康体操は黒野会館で行われ、この日の参加者は30名ほどであった。壮年期から老年期の女性が多く参加していた。一人の講師が前で、音楽を流しながら指示を行い、参加者はひとりひとりスペースを確保し、それに合わせて体操を行っていた。講師が前で参加者の鏡となり体操を行うことで、参加者は体操を行いやすいと感じた。講師の方と生徒の方々、生徒の方々同士でのコミュニケーションが活発で、楽しい雰囲気で行われていたことから、アットホームな空間であり参加者がリラックスして体操できていると考えられる。今回の体操の内容は、タオルを使用したタオル体操、ゴムを使用したゴム体操、黒野会館祭りで披露する予定である「残酷な天使のテーゼ」の曲に合わせたダンスの様な体操であった。各体操、筋力の向上や身体機能の維持が見込まれる体操が考えられており、個人のレベルに合わせて行えるように、講師が「難しい人は〇〇しましょう。」などの声掛けや、ゴム体操ではより筋に負荷をかけた場合はゴムの本数を増やすことを勧めていた。これらのことから、健康体操を通じて、身体的健康、精神的健康、社会的健康を参加者は得ることができると考えられる。

参加理由について、ある方は入院し手術したことで健康意識が高まり、運動や体操を勧められたこともあり、参加したと話されていた。多くの参加者が健康を意識し始めた際、黒野地区で行われている健康体操の存在を知ったことで参加されたようだ。黒野地区の複数の教室に参加されている方も見られ、その方々は健康の目的の他にコミュニケーションを取ることも目的とされていた。

今回の健康体操への参加を通じて、参加者の方の健康意識が高いことを体感できた。実際に参加されていた方々とコミュニケーションをとる機会があった。普段は身体を動かす機会が少ないが、健康体操に参加することで、身体を動かす機会を自然と作ることができると発言されていた。また自分の身体を動かすだけでなく、参加した人たちで楽しくコミュニケーションをとることができるため参加することが楽しみであるとおっしゃっていた。このことから、身体だけでなく、心の状態も含めて「健康」であることが重要であると感じた。今回参加した健康体操のほかにも、地域では様々な活動をしている団体があることが分かった。このような地域の活動があることは、地域の方々の健康意識を自然と向上させることにつながり、コミュニケーションをとることで人々のつながりが増え、生活を豊かにすることができるようになる。このことから、健康体操のみならず地域の行事に参加することで健康に過ごすことができるようになる機会が増えるのではないかと感じた。

健康体操の良さについて、健康体操の参加者にお話を伺ったところ、人と交流ができることだと話され、周りの参加者の方々もそれに共感していた。そのため今回学生とコミュニケーションを取る機会になったことを喜んでくださっている印象を受けた。今回の交流の中では、参加者同士で知り合いの方も初めて話される方もいらしかった。どちらも会話が弾み、どこに住んでいるのか昔そこに何があったのかなどで話が盛り上がった。ここから、地域の団体や活動では、参加者同士で交流する時間があると、コミュニティの広がりにつながり、良いと考えた。

参加者にマーサ 21 にあるカーブスの様なジムなどに行かれているか質問したところ、マーサ 21 に行く際に通る橋を自転車で行くのは身体的につらいと言われていた。健康体操が黒野地区で行われることにより、遠くまで行くことができない人も通いやすいと考えられる。健康体操は女性のための参加が見られたが、黒野地区の男性はこのような健康の活動に参加されているのか疑問に感じた。

2024 年 社会貢献部会学生部活動報告

令和 6 年 5 月 29 日（水） 9:00－10:30 黒野地区婦人会との岐阜大学学内ウォーキング



黒野地区の婦人会の方々と社会貢献部会学生部の学生 6 名で、岐阜大学内を約 30 分間ウォーキングしました。ウォーキングのコースは学生が考えさせていただきました。ご年齢に関係なく体を動かすことへの意欲が感じられました。自然を楽しみながら、笑顔いっぱい和やかな雰囲気の中で活動することができました。自然を感じながら、世代を超えて交流ができ、新たな刺激や発見を感じることができました。

令和 6 年 9 月 17 日（火） 10:00－11:15 民謡保存会の活動への参加



黒野会館で行われた民謡保存会の活動に社会貢献部会学生部の学生 7 名が参加させていただきました。「あゝ黒野城下町」を歌いながら、体操をしました。また、「黒野音頭」「春駒」などの踊りも練習しました。今回の踊りの体験を通し、参加者の方々は健康意識を高める多くの要素を体感されていると感じました。踊り自体が筋力のトレーニングになるため、参加者の方々は楽しみながら体を動かすことができ、体力向上にもなり、健康的なライフスタイルをつくる要素になっているように感じました。黒野地区の昔の文化に触れたことで、地域の伝統や文化を大切にし、次世代に伝えていく重要性を感じました。

令和 6 年 9 月 30 日（火） 9:00－11:00 健康体操の活動への参加



黒野会館で行われた健康体操の活動に社会貢献部会学生部の学生 4 名が参加させていただきました。タオルを使用した体操とゴムを使用した体操、黒野会館祭りで披露する予定である「残酷な天使のテーゼ」の曲に合わせた体操を学生も一緒に行わせていただきました。音楽を流しながら、講師の方から一つ一つの動きに説明があったので、初めての参加でも楽しく体操することができました。参加者の皆さんは生き生きと体操をしていらっしゃる、体に動かしにくい部分がある方も、筋肉により負荷をかけたい方も、それぞれの人のレベルに合わせた体操をすることができ、すべての人が健康を維持・促進できる活動だと感じました。

今後も、黒野地区の多くの方々と交流できることを願っています。
活動にご協力いただいた黒野地区の団体みなさま、ありがとうございました。